

2016 年度立命館大学校友会東日本大震災復興支援事業

— 東北応援ツアーレポート —

「現地を訪問して想うこと」

参加者氏名：吉川健一

卒業年：平成2年（1990年） 卒業学部：文学部（地理学科）

震災から約半年後に一人で被災地（宮城・福島）に赴いたものの、もどかしさだけが残って
おりましたが、5年経過したことに焦りの様なものを感じ、応募し参加させていただいた
次第です。

これまで校友会活動に参加したことはありませんでしたが、校友会事務局をはじめ、宮城
県校友会、震災復興委員他の皆さまに温かく迎えて頂きました。

そして、ツアーの中では様々なご証言がありました。

南三陸町では、気仙沼向洋高校の岸先生から（“SOS”を人文字で発信、72時間分の食
料・飲料水の重要性、“ファーストペンギン”の勧め他）、移動車中で河北新報・大泉さん
から（防災意識の重要性・常備防災品の紹介等、インターン〔職場体験等〕の紹介他、さ
さ圭の専務（社長の奥様）から（震災後の5つの被害、間違った思い込み、会社・街の復興
に向けた道のり他）、木の屋石巻水産社長から（復興に向けた実際の取り組み方他）、『閑上
の記憶』での語り部の方の証言 等々

初めて目に、耳にすることばかりでしたが、証言された皆様が、自ら率先垂範し、震災に
毅然と立ち向かい、未来に向けて防災・減災に向けた取り組みの重要性を語っておられた
ことが深く印象に残りました。

私事ですが、建設会社に携わる者として参加し、会社が名取市の復興事業に参画している
こと、弊社OB（阿部直さん：故人）が昨年まで宮城県校友会でツアーに参加していたこと
にご縁を感じずにはいられませんでした。閑上の小中一貫校建築工事にも弊社が関わらせ
ていただいているようです。

現地出身者・在住者ではありませんが、今後も私なりに証言者として語り継ぐことが出来
ればと思います。本当にお世話になり、有難うございました。